設 立 趣 旨 書

少子高齢化の進展や人口減少など社会状況の変化に伴い、それぞれの地域で暮らす市民の生活は変わり、また、テクノロジーの発展によりこれからの時代は予測不能といわれます。このような時代においては、これまでの画一的な行政サービス、行政関与だけでは、種々の地域課題に対応できないことが予想されます。このような社会背景に伴い、平成31年3月に川崎市が策定した「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」では、10年後の超高齢化社会に向けて未来のあるべき姿「希望のシナリオ」を描き、その実現のため市民が主体的に地域におけるさまざまな活動に参加し、お互いに支え合うしくみをつくり、多様な主体の連携により、持続可能な暮らしやすい地域を実現する必要性を述べています。そして、施策の1つとして、地域での課題解決や新しい価値を生み出す市民創発のプラットフォーム「ソーシャルデザインセンター」（以下「SDC」という。）の創出を提唱しています。そして、このSDCは、地域包括ケアシステム推進ビジョンの取組をコミュニティ施策の視点から支え、相互補完的に充実させるものと位置づけられています。

SDCは、区民が主体的に集まり、多様なつながりや居場所が生まれ、お互いに認め合い、誰もが幸せでいられる「希望のシナリオ」の実現を目指すものです。私たちは、麻生区において、令和2年1月より、多様なつながりがあるまち、出会いのあるまち、やりがい満たされるまちづくりに向け、「あさお希望のシナリオ」として活動を始めました。

私たちは、活動当初、既に麻生区内にあるコミュニティ活動の拠点の視察を行い、地域活動・中間支援活動の実情を知り、他方で団体同士の交流・連携が未だ十分ではないなどの課題も認識しました。そして、視察の結果からSDCに必要な機能を検討し、新たな参加を促す機能、情報収集・提供機能、既存団体間ネットワーク構築機能、コーディネート・マッチング機能、オンラインでの関係づくり機能、人材育成機能、相談・活動支援機能及び調査・研究機能の8つの機能が必要と考えました。

次に、私たちは、この8つの機能を、コーディネート事例のヒアリング、訪問型相談の場づくり、WEB・SNSの活用、広報ツールの整備及び新たな参加を促すイベントの5つの事業として実施することとし、令和4年4月、「あさお希望のシナリオ実行委員会」を設立し、区内で活動する団体等の支援のため、相談の受付、人材の掘り起こしや、町内会、社会福祉協議会等とのネットワーク構築、地域情報収集など地域とのつながりを作りつつ、中間支援に取り組みました。そして、活動の中で中間支援機能の必要性と可能性を再認識しました。

今後、私たちは、前述の地域課題解決に向けた事業を行い、『みんながつながる みんなが輝く I LOVE ASAO』をキャッチフレーズとして、市民創発による多様なつながりや居場所を創出しつつ、幸福度が高く、誰もが認められる社会的包摂の進んだ持続可能な都市型コミュニティづくりの活動を進めていきます。これにより、多様な主体が連携してコミュニティを活発化し、麻生区の住民が地域への誇りや愛着を持つようになり、暮らしやすい地域の実現につなげていきます。この私たちの活動には区民からの信頼が不可欠です。信頼を得るためには、各種の契約締結や事業受託に際し制約のある任意団体より、公益的な活動を行う法人である特定非営利活動法人となり、定期的な総会の実施や、法令等で定められた書類の作成・提出、区民への情報公開などを適切に行うことで、健全な法人運営を行い、区民の信頼を得て、目的の実現を目指すことができると考えています。

これらの目的を達成するため、私たちは、NPO法人麻生区ソーシャルデザインセンターを設立します。

令和6年9月22日

法人の名称 NPO法人麻生区ソーシャルデザインセンター
設立代表者 俵 隆 典